

「辺野古新基地は作れない！ それでも湯水のように税金をつぎ込む 日本政府の思惑は」

— 設計変更を許さない！ 沖縄・辺野古現地からの報告 —
2020年3月14日（土） 19:00-20:00 渋谷勤労福祉会館・第2洋室

講演：安次富 浩（あしとみ・ひろし）さん
（ヘリ基地反対協議会共同代表）

沖縄県名護市辺野古での新基地建設に向け、政府が辺野古の沿岸部に土砂投入を始めたのは、2018年の12月14日でした。その以前に、埋め立て予定地の海底に「マヨネーズ状」とされるほどの軟弱地盤があり、対応する工法技術が存在しないことが明らかになっていました。この軟弱地盤について、政府は2016年時点で把握していたにもかかわらず、埋め立て工事を強行して移設の既成事実化を図ったのです。

その後、防衛省が認めているように、海に投入した土砂は、昨年10月末現在で全埋め立て面積への必要な土砂量(2062万立方メートル)の1%に満たず、辺野古側の土砂量(2工区の計319万立方メートル)に対して20.5万立方メートル(6.4%)にとどまりました。

そして土砂投入開始から1年以上経過した昨年12月、沖縄防衛局は、「辺野古新基地建設事業に関する第3回技術検討委員会」で、計画内容の全面変更を明らかにしました。

埋立承認申請当時は工事期間5年、総予算3500億円としてきたものを、新たに少なくとも工事期間9.5年、総工費9300億円と公表しました。さらに埋立土砂および地盤改良に必要な海砂の全量を沖縄県内で調達可能との報告もされています。

防衛省は、政府側の人間が半数を占める「有識者」を集めた技術検討会で、軟弱地盤の改良が可能だという「お墨付き」を得ようとしています。しかも、同検討会の委員3人には、辺野古関連工事業者から計570万円が「奨学寄附金」という名目で渡されていることも明らかになりました。防衛省は年度内にも設計変更を申請しようとしています。沖縄県・玉城知事は受け入れないと表明しています。

日本政府は沖縄の民意を踏みにじり、沖縄の心を折ることに執着して、実現不能な基地のための工事強行を続けています。この暴力に膨大な時間と労力と税金を使うことを正当化するための「設計変更申請」を許さない闘いが必要です。

本講演会に、多くの方々が参加いただけることを強く訴えます。

「辺野古新基地は作れない！それでも湯水のように税金をつぎ込む日本政府の思惑は」

— 設計変更を許さない！ 沖縄・辺野古現地からの報告 —

講演：安次富 浩（あしとみ・ひろし）さん（ヘリ基地反対協議会共同代表）

日時：2020年3月14日（土） 19:00-20:00

場所：渋谷勤労福祉会館・第2洋室

資料代：500円

主催：沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック 連絡先：090-3910-4140